

諸家系譜

上領
 笠原 榎田 上村 上條
 力 甲斐庄 龜井 蔭山 瓦林

庫文官政太		和書門
三三九	函號類	
二三九	架冊	

庫文閣内		和書
三三九	函號類	
二三五	架冊	

内閣文庫	
番號和	32649
冊數	225 (125)
函號	156 23

共二百廿五向

共八十五



未_レ三月廿八日
寄合肝葉_ノ出

系譜

八十八橋
才

法氏
百五拾_ノ葉_ノ出_ニ由_ル葉_ノ出

寄合

甲斐_ノ庄_ノ出_ル葉_ノ出

始米島 兵庫郡

山崎

兼右衛門

某

女子

女子

三卷

右衛門

先達兼右衛門上

以度土生此書公

母

成田氏女

天明元年七月廿五日受職國

於江戶仙石町屋補出生任外

宣文八年辰年三月六日病卒

為代右衛門兼貞光 故少加又任武

比下官身合文成同年四月廿日

繼自高少獲病卒身後子官目孫

金島代缺上仕外兼曾後病卒身未

新目見不仕外

寛政十一年三月廿九日系後之內

先身昨者遠仕外身以度土生順公

徳也差出十外未年之成也
先達台書出中以外書遠成
云云在公上

三月 甲斐庄庄九節

稿姓 甲斐庄

先祖云治人皇二十代敏達天皇五代孫在
稿姓兄公後流使五臣下持津河内二弟之
守楠判長稿云成十二代之孫河内鳥羽五
叶王後弟与稿後心長曾甲斐庄共遠云治
本國河内國之安土郡在云成五代目云梨代
甲斐庄之政中云年月日不知

藤之紋菊水 藤之紋菊水

家之紋 元流菊當時 時流菊水 藤紋 稿

楠判長稿云成十二代

云治 無在稿

母不知

妻不知

天文七戌年於河内生

權現公遠島濱松

河内城之北古出

河内見江於園東之白石洋領年月不知

小田原 河内一法奉

慶長五年八月十日病死于三野

吉祥寺葬并洋社院一松宗祝

先祖三成藤

一流

白河地紋并二社神等共三成

自画自筆古河藩小

慈覺大師

昆沙門天

一新

右慈覺大師作中侍先祖分不侍法小

右旧記本之燒失法不侍法小

葵御紋附河内扇

一新

右之先祖洋領法少部中侍不侍法不侍法在

先祖誰後何之儀洋領法少部中侍法在

月日不知旧記燒失法不侍法小

三層

在右邊

母不知

招平不... 中... 清... 有... 好

永祿七子年... 年月日... 知

權規... 知... 河... 見... 江... 波... 注... 石... 田... 系

河... 係... 以... 文... 山... 法... 注... 河... 係... 後... 祀... 國... 東... 新... 地... 二... 百... 石... 市... 官... 年... 月... 日... 知... 班... 舍

二... 百... 石... 洋... 廣... 年... 月... 日... 知... 國... 系... 東

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 大... 坂... 寺... 備... 祀... 元... 河... 係... 市... 官... 年... 月... 日... 知... 道... 明... 寺... 備... 祀... 元... 河... 係... 市... 官... 年... 月... 日... 知... 歸... 氏... 土... 右... 坂... 上... 卷... 城... 為... 祀... 也... 年... 月... 日... 知

大... 坂... 夏... 沙... 係... 水... 野... 日... 向... 寺... 備... 成... 祀... 元... 河... 係... 市... 官... 年... 月... 日... 知... 大... 和... 白... 光... 寺... 上... 祀... 也... 幾... 功... 沙... 法... 也... 身

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知... 河... 係... 係... 注... 後... 大... 雨... 若... 堤... 既... 祀... 係... 年... 月... 日... 知... 二... 條... 河... 河... 國... 本... 官... 年... 月... 日... 知

同寺葬号性光院北山宗心

三述

在在

母

松平家号宗中

中里浦多信有方母

渡河大綱云忠是口清附

妻

大河内金七郎宗御女

年月日不知生

大猷云官初自見此寺善院若此作年

改性后不知之扇風本寺中善信宗弟彼

此作年以年月日不知

兼惠元壬辰年正月十八日長濟寺以

作年以二月二十日二月二十日二月二十日

百治之庚子年二月九日病死本園寺葬

号淨知院淨宗性仁

母

早世

母

本園

女子

大正六年多事本園佛足

母

本園

女子

本園

母

本園

本園新二部宗御女

三親

姑傳八節

延慶傳

元澤傳

母

澁田大綱公殿

大正九年七月

妻

大目付

三木洋傳守之

年月日不知

年月日不知

炭有之

兼應之甲午年二月廿七日

庚午年二月十九日

巡見彼

洋傳

國十二壬子年九月七日

於武勇

洋傳

延慶八年

天和元年

上品山田

古成

此言

炭有之

古成

此言

合知此山二百石之數其河為先祀之後為
 知此先正親正時二十度古松中因備古多以
 身能少知列記也 國石在正南其山也
 能地正山處多可正正堂也 作出年月也
 先正親正時河以二百石南華曰代地二百
 石正正堂也 傳之先正親正時地也列
 於此於三月之百石也列正時河列正子
 石於正列相列三月石於上列正石各
 二百石也
 元祿二年十一月廿五日高死茶同寺
 葬於法昌院心不不安

正親

市三連

冊

大河川合七郎宗綱

年月日由系波河所系山公居市三連傳心
 卷及子羅成也

正實

二首在傳

冊

茶同

妻

正知

年月日由系波河所系山公居市三連傳心
 年月日由系波河所系山公居市三連傳心

後有公口初而 御同見往年月日知少納产
 此 御才也他坊武百石以下重子存年月
 日知於上別大倉五石山形坊市
 分知大般倉十石石改年月日知文達
 分知住山二百石之儀之河初先祖之
 後坊知以先三親口送之度方松園傳
 之相續少知坊 國百石之實上之
 能地之知也子可吊之重子此 御出於河別
 三日市南草田代地三百石重子室山
 貞享元元甲子年七月廿百石死若同

寺葬葬松院第石道忠

某 長猪 甲世

延宝五丁巳年十一月十六日高死法石法卷
 津江童子

母 早糸

三之文 四宮屋遺

養母 早糸

實母

年月日名知江生

大河村合寺山室園中

右三之實之像子心養子百成三身証或
相續住此年八月日心因心原家以絶
元祿二己年三月六日病死弟同古葬并
法名心光院青岩道信

女子 早世

母不知

女子 早世

古任院標

御筆

善神之像 一幅

常憲院標

御筆

花鳥日月文字 一幅

御筆

智考之序繪 一幅

御筆

大平樂之文字 一幅

右御筆答與者大平樂之兩幅之何連之

御筆御願此心道書燒火仕之常心

御筆御筆之由戸所不持仕心

右御筆長

友有公御代

常憲院標御代述三氣古不御之御初少御洋信仕心

三之因心原家以絶此少原信為中家右

御筆之御私常古御不持仕御御御

田記中ノ燒火仕事ノ詳也

正之

四布庄書

冊

大河内合七高宗園女

年月日不知元三ノ奥卷子云云

女子

冊

茶岡

宮崎藏歌重政書

女子

冊

茶岡

大東家七高宗園書

冊

茶岡

三永

在在書

冊

大目録

三永保城子守久女

書

中坊長三信書時女

年月日不知江ノ生年月日不知

常憲云云初而 御目見仕也

元禄四年未年壬八月十二日信政書時女

同五壬申年四月十四日御目見仕也

同十一戌亥年八月十四日御目見仕也

字水云云子年六月廿二日沙信所先小普

信松家信也与信也

字保二丁酉年二月四日信死茶岡守久女

法名成母院 藏山性心

茂雅

小直書

大目月

母

高木信流乃守久女

年月日不知 法名院者 乃山丹海祖也 庶

長身之義 養子 四代也

正格号改

女子

母

弟同

淺野氏信忠之妻

女子

母

弟同

女子

早世

三恒

始若石屋

死在信門

母

弟同

中坊長多信妻

養母

中坊長多信妻

實父

始長門守重常

實母

家女

妻

養父 西水養女

元禄四年未年 月日不知 始長門守重常

在所信列 須坂出坐

右三恒美海...
 方保二丁酉年...
 小菅...
 有渡公...
 蘇...
 方保四...
 同七...
 同八...
 宝曆九...

同七壬寅年四月廿七日...
 同八亥卯年五月廿五日...
 宝曆九乙卯年壬七月...
 早世

養女
 茶園寺養桂山院月...
 養女

實母
 養女
 實母

來
 傳八所
 早世
 永養女
 年月日不知江产生

享保六年六月廿五日病死花岡
寺葬号宝池院法香蓮心普童子

三壽

死三席

母

正永養女

享保四年三月十一日誕生

同八年卯年五月廿五日

有禮公沖代父三恒因心疾家智公一親其親
同年七月廿五日幼少身名代大養年七月
廿五日葬于山王寺合三保身

繼自三禮同年八月九日幼少身名使主
山王寺目録金鳥代款上仕
元文二年乙卯六月廿八日山王寺目録浪身
名

有禮公始身

御目見仕

寛保二年戊午三月十四日山王寺目録見通
名

延享二年壬午六月廿六日病死或十七花岡
寺葬号恭岳院茂山玄道

女子

早世

女子

母

家女

早世

母

同新

三聖

始在十郎

兵部

母

家女

妻

池田丹波守政昭女

享保二十三年五月廿八日誕生

延享二乙丑年八月二日高宗身以代

淺野氏助子也 母は少和父は武平

室身合宿成公同年八月十日能自涉後

高宗身以使之由乃日縁合身代就上

仕公

宝曆七年三月十八日涉合日縁根

馬代也

懐信公 初分 河内見仕公

宝曆八年五月七日被府山和名也

保身同年九月朔日 河内見也 保身也

喉等 至洋領時後之由母藏洋領

宝曆九年卯年十月廿五日西本若相仕
拜府内侍
河内日原源之代也子源或拾部上
西冲九日少右日原源之代款上仕

宝曆十二年未年五月十日

源明公河内源大守少内若相仕

明和元年酉年八月二日右軍場見廻
作舟

同之西戌年十月十日出指涉及仕

同年三月十九日布衣仕

同丁亥年八月晦日病死之捨之弟同守葬
号瑞功院篤了謙忠

三

朱鳥

母 家女 神尾氏女

宝曆十二年午年三月晦日少書院昔次

秋田大和守源永田源右左衛門重信年美子

石成少如美子又心弟意書院源源仕

明和二年酉年七月十五日美子子辰四郎成

兄正望子美子少如心正望子辰四郎成

曾子少如美子子辰四郎成

女子

冊

第

第三回梅歌集

横田花江与準松書

三册

始末鳥

去庫即

養母

比田丹波与及張女

實父

三青水月

實母

家女

妻

奥河紀与俊春妹

寛保二壬戌年十二月廿三日生

右三册儀書之讀子之養母子羅成

明和四丁亥年十月四日養父又三堅治武下

壬午合立成山同年十二月九日

河内同縁合鳥代子

後明治初之河内見能自之少禮上云

明和五戌子年九月十二日教養之屋橋上

若之伴

明和八年卯年五月九日被府法沙加若

江深村山氣高氣身禮之通河内見之伴

同九壬辰年十二月十四日教養之屋橋上

三傳子

女永四乙未年九月十日中川由番社仰付
實元政七乙卯年十二月廿七日病死乃于白草岡
寺葬矣号不名宗院藏園玄透

三傳合

女子

母

村殿平四郎俊保妻
池田丹波守政昭女

女子

母

家女

押田豊子侍信隆妻

三憲

庶出節

母

家女

成田式女

天明元年辛丑年三月廿五日生

寛政八丙辰年二月二日病氣卒於代

石川鞠貞宅 城住少姫文正物部氏

少室齊合家成同年同月十日生

之後從病卒年八使去沙太日自派全

島代越上家齊好病卒年未

所目見不仕也

某 弟名少 早世

母 花岡

女子 早世

母 武川經子 倭子妹

女子 早世 中根内信正 英壽

母 家女

女子 早世

母 家女

石之通法 隆山以上

三皇子石 河内 本國河内 生國氏藏 松尚為友之神田 於至比正親正永代年以

上野 町當石名神 以中 壬午年月日 見

寬政十一年未年三月 甲斐元正 五郎 巧

未十九歲

古原常 早合

甲斐元正 五郎

人皇三十代

敏達天皇 難波親王

大俣王

西木隈王

義奴王

諸兄

年名曾城王并子丸大臣以時始錫栴姓

宗良磨

母者淡海公女贈太政大臣正一位

島田磨

春宮亮

伯耆守

從五位上

峯行乾

若狹守

出書

神祇大副

廣相

近江守

東宮學士

公村

母者丸馬頭時風王女

近江守從五位上

好古

大納言正三位少内託文章博士

為政

大和守

從四位上

行資

伊豫守

從四位上

成經

從四位下

皇后宮亮

兼遠

從五位下

盛仲

押部耶

三遠

從五位下

三成

從五位下 檢律河内二乃守右大臣判官

多門多清尉永仁二年甲午生建長三年

丙子九月二十日於檢律河内澁川就後自教

四十二歲贈正二位中將出守出雲守南木明神

女子

三氏

子兄正成同死三十二歲

三季

七節

惠秀

律師任越前平泉寺

三行

初名多門元 正五節 常日正清門尉

三十二年於河洲四葉隱年越死二十五歲

三時

大和守正鳥助 兄正以口以殺死

三儀

小治部正河正鳥尉 正鳥次

三秀

治部正鳥尉 正鳥次

三盛

治部正鳥尉号大御食 西法入道

盛信

新左衛門尉

盛宗

新多房尉

盛秀

真人正

盛盛

次郎左馬尉

之丞正

隆成

右三郎

三虎

江前右衛門

右馬尉

三孝

七郎右近三式部良子

三忠

右近将監

三敏

大前領河内守敏甲斐左衛門

盛心

河内國甲斐庄知

三文

十部五部河内甲斐庄知

三治

長津守河内甲斐庄知

某

河内國甲斐庄知屬 昌山右衛門佐茂
就麻毛下有致切

某

寛正元年十月九日於河内右江城致死

甲斐庄新庄守尉

某

又治部

河内甲斐庄知

某

左衛尉

河内甲斐庄知

某

甲斐守 致中 國小井出 城主

天文二十年於我中國小井出城致死

後正

後正弓河列鳥帽子形城主

右ノ通沙座以上

寛政十二年未年三月

年合

甲斐庄庄五郎正

未
十二月廿九日出

法氏 □
五百四番 ○ 田田豊永子

系譜

力
新 法

評定新田後水部定信氏

甲斐庄庄五郎

橘姓

甲斐氏

敏達天皇五代孫尾大旨橘諸兄公後胤

幕之紋

菊水

家之紋

元流菊當時
付港菊水

磐之紋

細柳内根橘

某

三平

母 不知

妻 不知

出生年月不知

河内國原人高麗太子妃

慶長十九癸亥年

檢見云大坂寺湯沐之殿 湯沐中口在右寺住

大和國法隆寺 湯止宿方立歸村村近

湯出流之湯道也葉肉之儀法田中云

其在家不寐之國人其村在湯邊也

作舟外湯五浦亦在右寺中傳也云云

亦歲云云其小寺好也其化在右寺

實永十八己亥年六月四日病死其小歸也

吉祥寺塔中死藏曆長安

法名天志院源定室年中

三良

法名史

母 不知

妻 不知

生年月日不知

實永十一年由後改神尾宮門能也

正出七舍後五人扶持以下至

因十二子年法後者之向首也

傳外

活契出之番計 似身是述三月日不書寫
燒欠仕不知
明曆之貞年十二月廿八日病死前同寺家
号今性院本藏全古

三歲

二年 活隱休

冊 不知

書 不知

出生年月日不知

以曆之貞年法身更三良法武之印一室

五段之身法身法身所之取中記

寬文十一亥年表出之番計 似身相和

貞享二丑年評定新當番計 似身

其好病家身身領

元禄十一亥年正月申夜 河免隱居仕

享保七亥年六月二日病死前同寺家

法名法雲院歎了隱休

三歲

二年

冊 不知

毒

水注同付

馬場不在島娘

延宝五乙年生

元禄八亥年十二月評定所見原由申上
詰 石部相和少祖父三平三茂高年申
年額

同上一百二年二月限病者御付詰式申上
評定所見原由申上御付相和少祖

享保元甲年十二月十六日申上御付詰之拾後
洋願仕以享保二酉年越燒身當書
燒失仕申上御付詰之候不知

享保十四酉年十二月晦日悴卒御付詰
有之急御付詰 御付詰少祖遠急御付詰 御付

相之戌年二月六日御付詰 御付詰
宝曆二甲年申上御付詰申上拾八年相
御付詰申上

同年正月沙波 沙免御付詰波卷良子申上
御付詰申上御付詰申上御付詰申上御付詰申上
石高新御付詰申上御付詰申上御付詰申上御付詰申上
二月廿七拾六高死前同申上御付詰申上
号之御付詰御付詰御付詰

采

平助

水信自序

母

馬場共左衛門娘

年月日不知詳定所當依見是也此年公
相初在左以知本在首
在平保十四年十一月晦自平保以作付公

孝子

水信及信若

家次平助妻

母

菊岡

三長

陸直書

海靜休

母

菊岡

惣領平助遠流此信付此年過取輕仕
年月日不知長被流信詳定所當依在
見智安石坐相初知本在首見智
清光也願除形一通此信付此年
天明七年八月廿二日病死

三雄

三年 初大藏

養母

水信自序

馬場共左衛門娘

実父

水信及信若

家次平助妻

実母

浪人

星野久直女

二書

享保十三年出生

延享二丑年二月三日養子才續

同日三年形之通養子也仰付也

松平徳重之殿付之由勘定奉行出見

出羽守中後同年八月許之新見也

石出守之酒井雅樂殿付之由勘定

奉行右同人下後也

寛延二年七月見出信仕下由使持

夫人持持中平重之使中多御者殿付之

由勘定奉行神尾等授与下後相勤也

美良又之平三考儀

宝曆二申年二月四日病死同年六月八日

葬焉 石美良又取妹小由切承由扶持方異

以式之平重之於御湯之方酒井屋敷殿

之御後同年七月八日許定不若也仰付

取念御後也殿付之由使許定所由若

許定不若由役右少政方之相勤

宝曆五壬午年五月廿三日之捨之病死若同

寺葬早元性流有獄全也

氏印

養母

一

実父

平松院御出侍

鳥崎左衛門信為

寄合永井宗女

実母

吟味久太史女

享保十九癸亥年十月二日生

宝曆五年五月廿二日養父又三年正月雁高

宗左衛門宗子終一後方一澁川急養子

宗左衛門宗子高在机同日定式一石後

史少松松平右近相定後一保後以助定

幸以由剛堂後与一後同年八月旨

養父入法或宗一与方切田松平右近一

保後同月二日詳定新苗法一保後以方

松平官内少傅及侍一相初在史少松

明和乙子年三月十八日与松平右近一

保後以方松平右近右史及史一

同八年七月二日詳定保省設置保子

由同入侍一 御目見仕

安永二乙亥年十一月廿日大系左四郎史良

新晃刈村一法評而此為吟味左

遺小方松平右近將監處諸位後因分
少帳洋領揚言佐野少辰於清石
等被逐極取由同人諸位後時後
武令文武救洋領仕羽三年四月廿
拜野同八月八日於羽目之間 御目見在
同年三月廿五日在所用岩打中御由
少辰少辰洋領揚言佐野少辰松平右近
將監處之伴後令文武救洋領仕
同六月廿年三月廿九日自向井若三懸山公官所
信列之於井水内与歌村之角百世長

證立之為今味諸處小松平右近將監處
諸位後因二月二日少帳揚言佐野少辰
由同人諸位後時後二令文武救洋領仕
同年四月廿日由野同廿八日於中納言攝
御目見同年七月廿九日大津清利岩打
相勅由身由佐野少辰揚言佐野少辰
松平右近將監處諸位後令文武救洋領
同年八月八日道中乃今味揚言相
勅由身由佐野少辰揚言佐野少辰
松平右近將監處諸位後浪檢致為願

天保元五年八月十四日奉系伊藤守之事方
 正勘定奉仍之次第及之令人三月廿四日
 公事以味物波混雜不似中其仕格列
 海方氣格九等形以中其格及次第
 為相平在系及及之俸後限七枚活原
 天保四年正月十一日奉勘定次第
 俸身及田田且及及及俸後並之通
 水及之及之及及及及及及及及及及
 同日由同一人及俸及及及及及及及
 同六年正月三日海田道中及俸及俸

江戸城及用券形(右)及俸及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸
 合之及俸及俸仕
 實政元年四月廿七日道中一及之
 流取俸江戸城及用券形及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸
 同二年正月十一日及俸及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸
 及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸及俸

相願因之三年九月七日存定所為設內署
正任身以所差和社任身同年十月廿七日
濟免社任身

同六年九月十日同所為及之內署社
任身以所 濟同通差和社任身同月
海日 濟免社 任身以同年十二月十四日
亦及出情進本列和濟利多身以所身
布衣社 任身以所身戶田第廿二及任身後
同十年年三月廿八日程年出信相和
小身以所後和信信身下至和身相年

任身以所後和信信身下至和身相年
亦及出情進本列和濟利多身以所身
布衣社 任身以所身戶田第廿二及任身後
同十年年三月廿八日程年出信相和
小身以所後和信信身下至和身相年

同十未年十二月廿一日存定所為設
撰述濟用身以所相和身以所相願和社
任身以所身戶田第廿二及任身後時後二
洋願社也

某

第一卷

早世

冊

大正書院藏本
昭和十一年九月

女子

母

早世

弟同

女子

母

早世

弟同

某

母

早世

弟同

正邦

母

長三弟

同弟

正妻

安永六年甲午二月十二日生

寛政四子年三月廿二日山本公頼仕室
同年三月十五日於山本之間
所自見仕也
右之通涉在公之上

高之百拾後

本國河内
生國成藏

洋領屋浦下名之校橋

内而存後身之移打也
而十信之後也之也
外而後身之而後

寛政七年二月

甲斐正氏助
天正十六

不
字
女

系譜

未三月廿八日
寄合所書出

徳氏
百廿拾叟 堀田豊市

寄合
亀井久之助

源姓

龜井氏

幕之紋

四目結

家之紋

同以

塔之紋

無印性

龜井其弟政非二男

初孫之弟

貞名在後

經矩

母龜井其弟之政非家女

妻堀田和智子之次女妹

慶長十九甲寅年四月於麻野出生
寛永七庚午年二月廿日

台法

台法之旨 旨出也切未或百儀世中至出也院
若若信付事小因信事總成後百
儀由加増取合三百儀於未檢所其目
儀由地五百坪屋補洋領仕實文五
乙巳年五月朔日見信中旨益改事款
父老身事政矩違願之內石角領儀
那之內之石角領之通旨 信付
同八戌申年二月八日酒井伊勢守領之節

東方故出自身代也 信付同四月廿日夜
寺之寺帳於河原書院

御目見也 信付合五教洋領仕同
三月朔日收府
御目見仕也

延宝二年年一荒川出羽守組成
同云乙巳年九月九日死年六拾四歲
其寺松寺也

法石法意院就長奇貞

慈愷

初植休

第日

玄蕃

母家女

云書

寛文四甲辰年申秋所亡所自能此生
延宝五丁巳年十二月十日又没或弟一宗
法相入久保在系元支既成同月廿百能
同日沙院由本分同縁合且島代此中上
享保四己亥年二月石山上若年奇事既
云仙舟

同十四己酉年六月十六日病死年六拾六

芝吉松寺古葬

法石之松院所臚探山石碑貞

維宗

母家女

右法門後骨也

年八月廿日申秋所亡所自能此生
右維宗儀知少病身身常婦子其
父形或相像此少方已於今因在
元禄十一戌亥年九月四日病死年名知
葬新冢同寺

法名行位院會也甚奇

女子

母亦女

仁人所身以

林公作忠和書

淑子知

同友作在遠書

女子

茲堅

細余三物

之友

母亦女

書

龜井澄信子茲親養女

貞享二乙七年本格町公海出地之出生

享保十四乙酉年九月二日父武部守重公
咸同年壬九月十日病死此乙酉年
其妻和寺口家
法名海性院天山利貞

山後書

三林市在遠利安書

女子

母亦女

女子

母亦女

寬延二乙巳年二月十九日

清平丸八國兵也 巨出也此也

宝曆十一年己卯八月

宗子居流孫也河也中富也 似身

明和六己丑年六月也中富也 似身

安永二癸巳年二月

河遊也身事獲利發也史令力也切也此也

持方也少也私也身事也此也

茲補

冊

初世之也

第力

永井宗女尚兵也

妻

後府也

永井宗女尚兵也

享保四己亥年也櫻所筑也此也

享保十四己酉年十二月二日又記也此也

因十五庚戌年四月也皆往也此也

也令目孫也令馬也西九也令目孫也

也代也使也相納也同廿乙卯年三月也

日同孫也浪馬也此也

有徳云也 河目身也

宝曆九己卯年七月十日也死也此也

也之也松寺也此也

法石源公院冥山名員

女子

出珍子

恒田托布子恒信妻

母龜井法政子茲親養女

女子

母右同

松平主事次原納容

女子

母右同

小出誠然史好妻

出性祖
大長水口

茲奉

初德之德

玄著 弟力

出子

母

聖妻

永井常女尚母

澁野正敏著

元文五庚申年五月九日申推所推花史生
宝曆九乙卯年九月四日又改式下至与
松平右近将監殿正位源孝合合成

德法公口德目 河後史方目德合馬公上

明和八年卯年五月十日申中興中性法
以身方松平右近将監殿正位
安永二年午年三月八日说史史史 以身

出雲守ト書改

天保元年七月七日病卒年九十
中興元年二月十日病死
貞應元年二月十日病死
其子ト松平ト宗清ト宗清ト宗清ト

茲義

母石岡

室曆九己卯年二月飛井能光吉ト

龜井能光吉ト律員家系

龜井 一学

家老ト家相續正誠實政元己酉年
九月十七日病死

山莊屋山田北後子祖

山莊屋十郎

永惠

母石岡

昭和二年四月十日病死
山城守祖山莊屋十郎

某

母石岡

日守早世

茲未

卷三郎

冊家母

妻 龜井氏氏子維賢妹

天保六年三月十一日海祖經之通江原牛島
引及中一有死也

昭和二年戊午六月廿七日在櫻所管地出生

天保二至三年六月廿七日在武部寺宮名松平

因防之殿新治渡寄合殿

同年九月十九日總目之德院初京守也

同孫合島代以便者也

同八戊申年二月廿五日自孫浪之代

初命 御自見也

媼祖身在廣洋領屋浦本櫻所五可目

後地共百坪之內切地分或百五拾坪為

在東之祖山崎中屋安本櫻所家地

千或百坪之相對也然之通江原牛島

石室初洋領之御年本對也

年月日希尾龍院之代言相續矣

此也子相也

安永三年八月十一日在櫻所五可目

一
據此地洋領全補或百五拾坪之積系
誠中寺中所領河下屋敷八百坪之內
四百坪之積對登殿之通口坪付也
天明六年三月九日小松所領此
洋領全補千貳百坪之內或拾坪之
西丸法去流若流序或此少補領尾林
奉一郎所領河下屋敷全補六百拾坪
之內四百拾坪之積坪之對登殿之通
口坪付也

女子

丹家女

寄合
所領新進依實書

女子

丹家女

寄合
永井十九傳由觀書

天明九年壬戌年八月廿四日
蓮光院探出河下中病狀
辛亥年二月 河遊去身輕之通而帳
此後同辛酉年四月廿一日下宿江同五
七年二月六日海組輕之通之坪付也

女子

母家女

早世

龜井法及子能資家系

貞祺

母家女

多羽玄蕃

實政三年三月廿四日龜井法及子能資家

相續

小室信重子能資家

女子

母家女

國形信重子能資家

某

母家女

悠三郎

實政三年三月廿四日龜井法及子能資家

右之通沙羅山

高二子石

本國出雲

生國武藏

洋領在尾浦

本領所流地

洋領在尾浦所下尾浦

正山流山

實政三年三月

龜井法及子能資家

實政三年三月

不
初 依

先祖書

未
十二月 改 日 出

氏
四百九拾七番 〇 海田 景 子 子

西元正小綱

龜井平三郎

德積氏 龜井

徳和天皇奉化於木匠上於世重政分以之紀元其氏
住人龜井之河重信後亂龜井刑部重吉為男

家之紋 稻穂丸

笠皮 幣 幕之紋 井稻穂丸

龜井刑部重吉為男

ヨシニケ
吉重

母一〇九

妻 山本氏重吉光 信田大膳女
永祿五壬戌年一月日少知生此氏後代重吉
此氏後代重吉直道此知此因不重吉根之

右藏重吉少知減田信長之時没於其年十月
少知若年之時方根山山入在兵部元治字根山
政中少知存國系信長下 於重吉根山成於其心
取次方

神名 重吉出知少知石原重吉代 又國述重吉云其初名
重吉身年入少知信原重吉於信原人重吉少知 其出少
月日少知
寛永十七庚戌年一月七日辛酉 教七十九癸卯年其
宗多吉少知 信原院編少知宗原

忠應

神原重吉

印右重吉
改開重吉

母 妻 山本氏

信田大膳女
其系重吉重吉重吉

一慶長三辛丑年一月四月海日生口
寛文二至三年一月廿下於信原院

江陽院柳... 石山寺院青... 而後賜... 勅同... 四年...

三月九日... 宣旨...

同日... 宣旨...

延寶二年... 宣旨...

延寶二年...

元祿四年... 宣旨...

号... 宣旨...

右... 宣旨...

皆... 宣旨...

苗... 宣旨...

忠貞

冊

嘉... 宣旨...

嘉... 宣旨...

嘉... 宣旨...

井... 宣旨...

宣旨...

宣旨...

宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

宣... 宣旨...

忠清

冊

宣... 宣旨...

法揚院御在 新親 口古史十人但二百後賜

元祿三戊午年三月廿二日廿一人但賜

宝永元甲申年三月廿二日西九山綱手

口二丙戌年四月廿一日西九山綱手

口年九月廿九日卒在永生時小性尼若以後為井

女子

口母 小生信下

口母 永生時小性尼若以後為井

忠亮

井後年三月

松平源多清女

實又 定代守合

實又 永生時小性尼若以後為井

實母

口母

實

井後年三月

後妻 福田小次郎

口母 永生時小性尼若以後為井

後妻 大寺守正女

口母 永生時小性尼若以後為井

文廟

元祿七年丙戌年八月十九日經福向卷其又年四月終

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

同九月子年三月廿二日西九山綱手

五章廟

女子

口母 永生時小性尼若以後為井

女子

口母 永生時小性尼若以後為井

口母

永生時小性尼若以後為井

法永

初桃(由)又因尼(名)并(年)之(年)

其母

其父(西)内(名)并(年)

其母(和)平(名)并(年)

其父(少)子(名)

其子(保)八(名)并(年)五(月)日(一)日(生)也(也)

延(元)甲(子)年(八)月(廿)日(卒)也(通)其(子)同(年)三(月)廿(日)

其(自)身(元)祖(之)氏(兩)也(也)

其(父)延(元)乙(丑)年(三)月(廿)六(日)卒(也)其(母)延(元)丙(寅)年(三)月(廿)六(日)卒(也)

其(弟)延(元)丁(卯)年(八)月(廿)七(日)卒(也)其(父)延(元)戊(辰)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)己(巳)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)庚(午)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)辛(未)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)壬(申)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)癸(酉)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)甲(戌)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)乙(亥)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)丙(子)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)丁(丑)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)戊(寅)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)己(卯)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)庚(辰)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)辛(巳)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)壬(午)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)癸(未)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

法亮

其(弟)延(元)甲(申)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)乙(酉)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

其(弟)延(元)丙(戌)年(一)月(廿)二(日)卒(也)

宝曆三壬午年八月甲子日吉方内位三浦村

伝湯

口母 内家早代位

小宗又藏

宝永二年八月丁丑方内位小宗又藏

中子

口母 号初明位

九毛孫宗初明位

中子

口母

川村位七女

号并孫宗初明位

宝永四年壬午四月甲子日吉方内位三浦村

法純

口母 中内位

三浦位七女

宝永四年壬午三月丁丑日吉方内位

宝永八年辰年六月丁丑日吉方内位三浦村
宝永九年辰年三月甲子日吉方内位三浦村
宝永十年辰年三月甲子日吉方内位三浦村
宝永十一年辰年三月甲子日吉方内位三浦村

中子

口母

根本平与

又右号可一与右在宗

利得

口母

九毛三郎平

宝永九年丁巳年五月九日吉方内位三浦村
利得三郎平

法貫

口母

右三浦村位七女

二三四百後

中國化仔
生國成藏

辰屋

表二書可

寛政十一年七月

龜井平四郎

辛丑

右と左邊の龜井平四郎出書は是れ祖書に及ぶ事
右改差等々以上

文化二十七年八月

清書院書

鎌田山城守

龜井平四郎

七三三
西

申
三月廿八日出

改氏

千二百六拾壹番 堀田貴希

先祖書

五永年

甲辰

小室氷元

形

清書院書

龜井駿河守

先祖書

穂積姓

龜井氏

景俊 穂積尾

景俊 景一

景俊 穂積九郎

井坂平左衛門忠雄一男

忠清 井坂平左衛門

母景俊 穂積平左衛門昌泰女

三保四十六年二月廿四日生

右忠清平左衛門景俊一男景俊景俊景俊景俊景俊

一日流初相繼任身景俊景俊景俊景俊景俊

天和元年九月廿一日

横田景俊景俊新太郎而傳入平左衛門

元禄二年十一月廿二日平左衛門

宝永元年二月十二日西九内人景俊

宝永二年四月廿七日西九内人景俊

同年九月廿九日死

景俊景俊景俊景俊景俊景俊景俊

法嗣

半左衛門

母入小景俊 入江平左衛門景俊一男

寶母家女

景俊 景俊 景俊 景俊 景俊 景俊 景俊

宝曆七年十一月廿二日死

景俊同寺号中妙院貞蓮日景

万治元戌年生江

元禄八年二月廿二日死

元禄十五年二月朔日自初四日
横田氏及古家出男或百後入所出院表出此書上
但室水元申年三月廿百西九上法入新久國表
皆所但
室水元申年十一月廿九日入大書松年直江也
室水元申年九月廿一死年九岁
葬同寺 号中妙院自宗家云

一法
五十一節

出母仍由成女
齊道人作及勤多清貞女婿男
實母也名誠布子 少納心所居通同宗家
妻 善女 宗家通同宗家
室水元申年二月廿九日
葬同寺 号信隆院妙院日居

室水元申年七月廿百陽法年子孫業
丹後中
室水元申年四月廿百自初四日入大書松年直江也
元文四年三月廿百自初四日入大書松年直江也
延享二年三月廿百自初四日入大書松年直江也
延享四年二月廿百自初四日入大書松年直江也
葬同寺 号隆光院元長日又
室水元申年六月廿百自初四日入大書松年直江也
冰節 永年三月廿百自初四日入大書松年直江也
室水元申年二月廿百自初四日入大書松年直江也
女子 善女 宗家通同宗家
册上月
女子 元禄中元及嘉永 五石因左邊 以方書
册上月

女子
母上同

享保十二申年六月廿七日死
葬同寺号智院院妙惠

女子
母上同

宝永五子年十月十五日死
葬同寺号妙深

女子

法橋
母龜井氏女

享保十二亥年

比宮御所御

宝曆十四甲申年二月廿八日
宝永五甲申年二月廿八日
死同寺号法院院妙理日鏡

稚法

母龜井氏女

享保九乙酉年秋山法皇御所西岸女

享保九乙酉年五月廿四日

享保十四丙午年九月朔日

享保十四丙午年九月二日

宝曆十辰年六月廿四日

宝曆十辰年八月廿一日

宝曆十辰年三月廿九日

宝永八亥年一月廿二日

天明元建年六月二十日

葬同寺号法源院自樂日確

小森

了ん

宝曆六年二月廿七日
寶曆七年二月廿七日
寶曆九年二月廿七日
明和九年八月八日
同月廿日

寶曆六年二月廿七日
寶曆七年二月廿七日
寶曆九年二月廿七日
明和九年八月八日
同月廿日

清

歸

初

母

寶曆六年二月廿七日
寶曆七年二月廿七日
寶曆九年二月廿七日
明和九年八月八日
同月廿日

其百石之... 天明六年十月七日... 天明七年四月... 天明八年... 天明九年... 天明十年... 天明十一年... 天明十二年... 天明十三年... 天明十四年... 天明十五年... 天明十六年... 天明十七年... 天明十八年... 天明十九年... 天明二十年... 天明二十一年... 天明二十二年... 天明二十三年... 天明二十四年... 天明二十五年... 天明二十六年... 天明二十七年... 天明二十八年... 天明二十九年... 天明三十年...

天明二年四月... 天明三年... 天明四年... 天明五年... 天明六年... 天明七年... 天明八年... 天明九年... 天明十年... 天明十一年... 天明十二年... 天明十三年... 天明十四年... 天明十五年... 天明十六年... 天明十七年... 天明十八年... 天明十九年... 天明二十年... 天明二十一年... 天明二十二年... 天明二十三年... 天明二十四年... 天明二十五年... 天明二十六年... 天明二十七年... 天明二十八年... 天明二十九年... 天明三十年...

若右御所官系清用而取平是也
寛政六年九月廿七日官系相親初十日賜時後
二心御意江傳
寛政六年四月十六日相親相見澤会井上左美作
傳以少所親之自是介之御所遠臣等八月
廿二日由之六月二十三日
寛政七年三月廿日御所令系少將清用二百
賜金三枚時後四遠江傳以所申列之與所
賜列長屋少之間
同年二月廿五日由年三月
若右御所西行後之御所西九月五日
向清修夜之外所被手越前而取被也
遠江少傳
寛政八年二月十九日令系少時後之江
寛政八年四月廿七日及河海之御所江力

江力月廿五日由年三月廿六日之御所江力
物於差之云賦上
同年七月廿日 昨御所江力在江力
相親同月八日由御所江力在江力
傳以少 所自見列上云
寛政十年五月廿日由御所 世及對馬少傳
或列御所江力在江力 內山少傳
村少傳

清鮮 御所

若右御所
寛政六年四月廿六日由御所
天明年五月十一日由御所
寛政元年三月十八日由御所

寛政五年二月十日自白
寛政九年四月十日
宗女之使

寛政六年八月十日
寛政六年十一月十日
時後之

寛政七年六月二十日
寛政九年七月十日
上院

寛政四年七月十日
寛政七年八月十日
宗女同守

後書
宗女同守
宗女同守

寛政八年四月十日
福東

法乃
母 石

柔
母 福

石之通

宗女同守

寛政九年二月十日
龜井

高五百石



不
形
原

系譜

中二月廿八日
此幼定年以不出

改氏
千百拾七番の増田と云ふ

此幼定
亀井文左衛門

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

源姓

龜井氏

先祖於小倉在幕府之末苗家因氏
以熊野氏代任人龜井之希重氏
後流龜井洋之官廣府重利入龜
法雲之河國古任仕

家名龜井卜相及由由來名

幕之致

丸内柳葉坊邊

家之致

丸内角三目結

長代稻橋坊

望及

裕穂、九

右河上之代、座りて相及すべし

彈正左衛門尉重利入道法雲甚男

重延

御解由左邊

利延

作左邊

幼右五左衛門

母家女

素

出知

天文十七戊申年二月廿日生河國

永祿五年壬戌年一月日

權得極片 皇兵衛尉之於 所藏之 古出内友

元三河守之死 由是相勅

同十丁卯年十二月遠及流極片 所藏之

由移立極片前以流出

天正七年卯年四月七日

台榭流極片 所從生立極片内友彌富守 中守結

作舟是以治右邊の利延は所懐守也

流片十丁卯年

慶長五年壬午 藩兵國系少令致牙

此有國之人質燬久之能誠治者
巨勢重兵在勅書仕上初燬於
大官村地方或拾石為新鎮出城之林
立中至外甚後

台鎮公勅命 河上德正經兵治法仕公

天守八唐宮三年國東出入國之後月及
德理之重子從成官是見出書仕 治守公
王初大官村地方河川地身仕 石上
右為聖代安次首面領之立中至外
水換陽多可為迷卷山守守可修折

中上洋領可為治仕 市內及德理元
下後出為并多立中至外甚後

寬永末己巳年一月廿日

中溪院柳沙庵及山書信作身

同大甲戌年二月二十七日
年必四官長介守 上安
法名源宗道剛

利備

冊 易知

妻 志

慶長十四年閏年三月廿九日生

寛永十一年戌年父治(遺)利延(遺)志

中書(遺)時

本隱院御法(遺)成(遺)相(遺)部

延宝二年寅年 所遊(遺)身(遺)明(遺)家(遺)書

志(遺)仰(遺)身

同七年未年八月四日七拾歳(遺)高(遺)死

庚辰(遺)四(遺)名(遺)長(遺)身(遺)上(遺)安(遺)并

法石心淨院(遺)竿(遺)庭(遺)願(遺)割(遺)

晴(遺)延

佳(遺)長(遺)

冊 妻 白石道(遺)文(遺)女

寛文四年甲辰年六月二日生(遺)戸

延宝七年未年父治(遺)在(遺)道(遺)利(遺)備(遺)法(遺)成(遺)法

下(遺)至(遺)以

元禄二年己年小童(遺)語(遺)方(遺)伴(遺)賢(遺)志(遺)仰(遺)身

宝永二年戌年三月廿二日(遺)生(遺)拾(遺)俵(遺)下(遺)至

正徳五年未年正月(遺)百(遺)回(遺)所(遺)入(遺)是(遺)方(遺)伴(遺)賢(遺)志(遺)仰(遺)身

正徳(遺)年(遺)伴(遺)身(遺)志(遺)仰(遺)身(遺)人(遺)杜(遺)持(遺)下(遺)至(遺)以

元文元丙辰母紅葉山出書以 伊丹
 同二戊午年二月廿五日書 巨華書
 出情以相勸其上奇特成勸方寸武
 拾後由和防中至初月百倍了不
 成思融了未取也 伊丹中書在後
 此伊丹後也
 伊丹山書云云拾二年相勸
 寬保元辛酉年二月廿七日午八分書死
 葬於所安同寺
 伊石切成院院得新了前

利景

父(篤)

初名(海)

母

伊人

包石道三女

妻

伊人

三宅吉三(清)女

元祿七甲戌年八月十二日生
 石文書(成)
 元文二戊午年二月廿五日書
 之末取也 伊丹中書在後
 其上考公(辰)相國(中)部(左)衛(少)輔
 此石出(文)程(在)傍(の)近(役)伊(丹)中(書)在(後)
 伊丹(中)書(在)後(の)近(役)伊(丹)中(書)在(後)

同治庚申年六月五日死幼定也 係身
實係元亨同年父植遺傳請延該武
部下重外子後於合堂等處之格年相和
明和四丁亥年二月二十七日亥時死
葬新野岡寺
法后堂水院裏岸釣江

勝利

植遺傳

書 冊

小室信則少少系族中子也
北著其河條我中
二宅信信信信信

正德四甲午年二月二十日生江戸
右植遺傳の儀

室曆女上亥年十二月六日辰辰生江戸
子死幼定見名也 係身格人持將以下
室相和

明和五戊子年二月廿日父文遺利景
請式以下也

同年同月二十日亥死幼定也 係身
天明四甲亥年三月廿日辰辰生江戸
係身格也自在一通也之也以下也

實政五年七月廿六日申午之辰會
二十九年相勸老妻住小舟入
年預少預之通小童信入此仰身于上
年幸之遊出申公申勸小舟高由申申
浪信及洋國住小童信組國河國
子既成

保家

北在屋信

幼在在助又為其

抄
實保于乙卯年八月廿六日小童信組小童
我申于五既北著五印保我養子成

抄

二完名之情也景也

利清

道也

母

北著五印保我母

素

小童信組小童信組

小山深以在信實也

元文五年申年二月廿二日生
女永二癸巳年四月廿七日之信實也
養新步同寺法若智圓院淨去全稿

女子
母

五夫后主
中清南春書
此書乃山内清南所撰

山内清南書

利在後

初名時景少

保利

母在國

云書

寶曆七年十月二十日生

右利在後

母水之妻己年四月廿七日先次生

以子生想願書於此紙經之通

安永七戌戌年四月十二日

子部是是見

天明四年辰年七月廿日

寬政元年己酉年二月廿日

雖相節法在也

同年二月十二日

於此紙經之通

同大永七年二月九日

葬所

法名安永院白蓮

女子

母家

文正傳

初名文正

利勝

母

比若五郎保藏

明和四年亥年四月十六日生江戸

私儀見利右衛門越前除年紙付

實政元己酉年四月七日又檢右邊

越前守利右衛門通紙付

同四年子年三月五日就任江戸

中勘定書

同六年亥年四月廿日父源目

廿五日水芝三右衛門重吉未年近江守

越前守利右衛門

細川長門守

中川辰助改文書

女子

母有

大正普濟社

女子

大津五郎守國

母有

女子

養母

實父

實母

小山沢原富良野

家母

石炭女成系井出河内妻三子生也
此河内妻死後又檢在河内河内河内
幸野養母也

女子

冊

細川長門守家母

大伴和助家母

右之通法隆寺上

二五五拾後

本國 冬月
生國 實花

月 中五拾後二人扶持
此是三八拾五後

洋領屋補

中折米金所

當新市之谷村山先自津津米組
米花北面之角信化屋完也

寛政十一年
龜井文在書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

未三月廿
表川藏於古也

系譜

昭和源氏
七百三拾七番田豊子

如
源彩

小室信胤表川藏於古也組
龜田之在在場

清和源氏

三好

先祖馬治十郎長三清和天皇後流三好源氏
長房末孫之好仲行長文長慶房多所使國
馬治左任在仕家名馬治十郎三好氏在實多
後文龜田卜改山名氏也

指馬紋

三盛菱

幕巾紋

三盛菱

九内井筒

幕巾紋

三盛菱

幕巾紋

三盛菱

龜甲

三直

龜田氏傳

長良

生駒源房守方三直也

三由

龜田三由三傳

母家也

妻系源傳人 中村三由三傳也

延宝九箇年二月廿日

横田清康上立出許部也

元禄四年二月十八日所納戸

元禄十一年十月廿二日死

三由中其子自三由也 号忠清院云云

三備

龜田三由三傳

母中村氏也

妻忠清院 池田新三傳守高卷也

実松平出羽守家系池田御用書

義貞二年生息江

貞享四年三月七日自部屋

元禄七年三月九日御用書

元禄十三年七月廿七日甲辰

宝永元年二月十日

同年二月十日

文公西行

宝永二年三月廿三日

三徳二年六月廿九日

助時後式

正徳四年七月廿六日

正徳五年八月廿九日

享保元申年同日

享保二酉年八月九日

享保三戌年八月廿一日

享保四亥年七月廿一日

享保五子年七月廿一日

同年八月五日

享保四亥年

相成三月

控名

享保六丑年七月廿九日

享保九辰年二月十九日

同年七月廿九日

享保十二申年九月十日

享保同寺号切

某

是也

丹池田氏

享保五子年三月十九日死

葬同寺号国弘院本所云

為忠 是原角左衛門

丹上岡

享保五子年三月西尾之彦武彦書進作其子

三清

法之平 龜田之山左衛門

丹上岡

素天全身以小作子久左衛門

後素小作左衛門酒井少左衛門松平且高在馬場本所

元保十子年八月十九日生也

享保五子年二月十日

同享保五子年三月十日清目見

享保五子年九月十日入西尾中人是也

元文元年十一月十日新書少左衛門

延享二年二月十日新書少左衛門

元文元年八月十日新書少左衛門

同享保五子年八月十日新書少左衛門

寬延元年六月十日新書少左衛門

同享保五子年三月十日新書少左衛門

寬延二年四月十日新書少左衛門

享保五子年八月十日新書少左衛門

同享保五子年七月十日新書少左衛門

同享保五子年六月十日新書少左衛門

同享保五子年五月十日新書少左衛門

同享保五子年四月十日新書少左衛門

元夫、念公、何、可、... 作、...
 天明七年九月十四日、渡河、元夫、藏、公、松、河、...
 ... 相、... 嗣、... 官、... 同、... 同、...
 ... 實、... 實、... 實、... 實、... 實、...
 ... 實、... 實、... 實、... 實、... 實、...

伴清 五十七

清

母上月

延享五年二月十八日生
 享和二年二月廿四日、新妻、...
 享和四年三月九日、...
 享和八年九月廿二日、...
 ... 天明九年九月、...
 ... 享和四年、...

三繪

三繪

... 三繪、... 三繪、... 三繪、...

美母 貞子 於木原 國司 當郡女

素 美文 三興 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

女

母 後 於木

素 美文 於木

母 後 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

實政 九年 四月 廿六日 實政 於木

小原

系譜

未三月
大田志摩子出

信和原氏
武拾五番
田量家子

西尾御出院書
大田志摩子出
松山牧馬

源氏

菫山

從之任在子改基氏以四代源氏將軍後
三任厚信曾持氏於永享十一年二月二日
生害滅元之而持氏未男之歲時乳母
懷抱汝為多則海外緣法在菫山
播磨守廣氏宅成是以前廣氏為婿
尾港守廣親卜子時在菫山改中

幕之致

九月抱活宛釋

家之致

九月抱活源

登之致

九月曜

謙余將軍持氏書
陰山攝摩多摩氏婚

廣親 尾治

廣忠 攝摩多

家康 是門

忠康 於於廣尉

氏康 是門

北條氏重幕下天正年中西小虎出更
和時實兵沒家室至女五人俱乘
是門氏康自於海多信山家(打稿子
權親云是差上水官以下于時

天正十八年小田原落陣初更州
勢出布于後

權親云
初推男子是差上至後因信与貞康是
其父在十年甲寅二月日官高在
出沢州法寺口云云

法石院澄院運經日記

女子

後在院百方後在院小字

養珠院殿

冊 北條治經之嫡女

右養珠院殿室之三子近江守時

女天正二年申月日也臨山長門守

氏屋

禮規公后御宮仕少御右様

紀伊大納言輕宣以水戸中納言輕房以

清誕生有之子存養珠院殿之稱也
養德二女己年七拾四歳之病死
池上本門寺之廟在

貞屋

依助

因信也

冊

北條治經之嫡女

書

平山源正之次女

天正二甲申年八月日也至列聖殿村也
出生也

此助師卷在佛院殿後

紀評大綱之殿於真之水之中獨云於后之

亦被生海一廣甚年申

權院云市性記 似付更以兒玉形之內之石

社中至相親也

受是二十年乙卯二月七日詔更記此

因備考之及因備考之後心家紀性改

平性源性改以名上之

台雲清代年八月日也心家院若松年誠中

相親也

寬永十三年閏年二月二十日書院之康信

那之內書法也坊武百石在寺會部合

之寺也百石也

寬永十四年丁丑年二月日書院之高元

言中法備寺其年光德院宗陳日系

所系也并書也示持也後自也

三代目也心家也觀之廣也持也向也

大目也也及在系也松平海系也

持廣

六正廣

母

無事

平山彈正政光女

平山彈正政光女

在官道内儀文注目此乃小菅後政光
年月日不知其既不知其目之注記其力
因縁限島代之流少能中上云

大藏公卿氏實永十周年此小性他担平海多
當入此注記後之云身不知其後
年親小菅注入大之保在系之元孔之
實文上辛亥年二月下五拾二高元

法名淨勝院本潤日悟

如摩

平山外記

平山彈正政光女

大藏公卿氏 法揚院卿 由長國子其附小

其安四年卯年十月上而機田沙後
亦性從首限注而多情此注作身

同大正庚午二月十九日而五拾儀身至
王後並此如指之云七拾儀身中至

其時大正書卷山外記家之云也

如子

小川新九郎其列業

目録

冊 名目

池上 中門寺住職

冊 名目

右目録名目知少高見寺住職心法
預日蓮宗皇太子法妙法寺日通
出家住持後池上中門寺住職住
寛文三年二月八日高見

親歴

冊 名目

池上

書

大書

小川新九郎右衛門

江戸多生

寛文十一年亥年父法成寺中

後有公河内小書信太保在系丸繼

德目法統也太方後之代中上國人

子既之

定家四年辰年四月十日小性屋

上神助信也由書入也

正徳六年酉年三月十日十人

信也

同九丙子年四月十日由東京以新修
相勤公

同十七壬午年正月廿八日先親之通人
可相勤公

宝永之己丑年四月六日由持負自臨作
享保十一丁未年八月廿五日先

同十一戊申年正月廿八日由支度全
但負教以知日光沙信相勤

同十四己酉年三月十一日由德身以知作

中子

享保十七壬子年二月十二日守二高元
首中瑞備寺藏并研陸院各潤別

小巻信
彦山外礼屋文書

廣郊

郭十郎

母

妻

江戶屋安生

須山卷吉

元禄六年丙午十一月十五日由岩手縣馬場

常憲公初年 河内見仕

文昭公初年 被任

室永六己丑年 四月廿七日院著号北

海中与信后出番人

方子保九甲辰年 上月五日我因信与

信之

信信公二九 爲 入山取相書二因二九 爲

附以水野和事与後世 信後

享保十七壬子年 二月廿日父親爲病死

同至五月廿日 院武之与信与松平信之後

信信後公

元文二丁巳年 六月廿五日在信病死

常同寺安号 廣地院 養淳日瑞

貞祐

屋山形再

小川新九郎再

母

右程再識

常憲公初年

室永六己丑年 八月廿五日在信病死

秀山院養子与信同月晦 養子与信

宝永六己丑年四月二日京性在出若入
川猪胜笔书但相和以同月十日言後
洋領仕不當時之海軍官之家也

伊藏 汪水柱之師

政永

母 弟同

右伊藏筆

元禄七年戊午七月十日汪水柱記海軍

美良子之叔也

女子

汪水柱
汪水柱之師
汪水柱之師

女子

母

育

母

因以

廣慶

辰二郎

教馬

母

光政流極品局

妻

山崎

頂山養女

辛酉月日名不知江生

字保六年壬午九月朔日名浪氏在

有徳云初命 河目見仕也

小童法能行中因病而死之狀
元文二丁巳年二月四日西九水小性能
松平權之助能之友或指由中與能之友
室曆七丁丑年八月十四日拾七病死仕
本因寺葬号本是流理性田境

三傳

武能

小川新介

母

赤目

右或能養

享保丁二戊申年三月廿四日先子小川

新九郎保國養子或成

廣河

道國無

集

母

赤目

右弟女儀

享保丁酉年二月廿四日續之續之續之
親母養子親之通之通之通之通之通之
因丁七壬子年三月廿四日右弟女儀若字從
母秀少能親之身之身之身之身之身之
於其松平左與梅屋屋之身之身之身之身之

久庵

水居

新五所

冊

卷四

右新五所

延享二年八月三日

後由院御下 右出當時清水勘定小普請院山

西之志求

文苑

後之志

信十所

冊

卷四

本條之志儀年月日右川在月之後

卷五子之志

女子

冊

卷五

廣高

信十所

教馬

冊

西之志求

後由院御下

西之志求

書

本條之志儀

右私儀文教馬西之志求

從之志

宝曆七年八月五日高死同年

二月十二日又死或下志求

永作後小菅信經權山日記事入
同年三月廿六日安房浪馬式部信經自之
少礼中上公改樂基十河子死之記
宝曆十庚午年八月廿九日少菅院書
止若入大久保少郎信經入瀨井信實尉所
渡同三年年渡尉兵部相和信信
浪拾叙注順仕任定增少被換年以
相勤于好之度相勤致被古初
同高甲申年二月廿六日的
上說相勤時後二條領仕也

以和乙酉年二月廿日進物書
松平園防中殿所居後同年二月廿日
四雅漢寺第台空書成以江津寺
奉 上意 河同通多遠天仕小物
天附仕 還所治於捨向巨野守
之公遠多仕 河原之民古取所家
上意河為河同頂戴仕也
安永乙甲午年九月八日安永書經
高年身年能同年十二月每預通
小菅信入林尾石桂守死京于好高札

收出物仕

天明五乙未年二月廿六日
本郷出物仕
寛政八酉年二月十日
治承五年九月十日
寛政元乙酉年九月十日
少帳
寛政七乙卯年二月十日
歩少帳

横濱御用代

安長年中月日
六ヶ村
寛永十亥酉年六月
乙酉年二月十日
安永四乙未年十一月
洋領
寛政六甲寅年三月

寛政六年八月二十日
羽北系新九郎屋敷と本封置仕

廣之

養母

実母

明和六年二月廿九日

廣光

養母

福三郎

佐信

全藏

山崎

後出雲守雅孝母

家母

母 弟同

明和二年二月十日
久廣養母山崎氏
安永二年八月十日

廣隆

山崎氏

養母

実母

妻

西元

松平雅五郎宗清養母

家母

後出雲守長致養母

石書寛政六年八月

寛政元己酉年一號厨生若年九月御
出帳之次山本浪馬代八初分
御目見之御件也

女子

母

早世

早世

女子

母

早世

西九少院者

和泉雅五郎宗海養母

唐松

母

早世

早世

唐智

早世

母

早世

某

唐高

早世

人出常院

清師之及長致養母方妹

母

石之通清江少上

三子或百石 氏藏 年國古後 在屋浦新町町取
常法 生國氏藏

寛政元己未年

花山牧馬 卷一

原
小

系譜

未三月海日
内友甲斐文少公出

信和源氏
七百拾五番。坊田景常

人出番
内友甲斐文少
出法山外記

源氏 蔭山

後之位在鳥取其氏瑞因代鎌倉將軍
後之位在鳥取其氏瑞因代鎌倉將軍
二月二日生害滅之之御持氏書之藏
之時乳母懷抱夏列依外孫託在蔭山
播磨守之蔭氏宅成長以後蔭氏為
督尾海之蔭親卜等以時、若蔭山
改中山

幕之改 九月内抱澤原九曜
泉之改 九月内抱澤原 改改九曜

鎌倉幕府平將氏書
藤山指摩多摩氏書

貞慶

後深下因借与

持慶

二五

世系第廿四世西尾寺院若高志居
藤山牧馬慶子家世世公元祖
巨細之依在部弟人書上

好慶

好

和志

平山洋正二光女

江妻

元和六年庚申年二月廿日生江府

慶安四年癸卯年十月廿日長治新親
石出

淺陽院御台 山懐面多新出

同年二月二十日新撰用

河原水小性從家原出以之請從入
兼意元辰年二月十九日在後
實文元年 丑年十月廿日並出領
七信後以下至和合二言或百出千信
口八申年八月廿日下書信花房平直信

子能占入

同二十五年六月廿五日卒八

葬所 江戶市神田區臨海寺

号 光性院一深日圓

年月日必知小石川水川明神後身修補
淨願仕之取所用地之号有修補
八月多知助進古井人取取上之北角
坪敷足知在修補淨願仕也

廣文

若少知

并記

若母

實父

實母

書

出持自記

長治河内國美濃

新山若知

永井六之清女

光性院修補淨願仕也

廣文

子治元其成年四月廿日生江府

實父二十五年八月廿日生於權田

河原

法皇院御所時也廣文之通養子也

同年七月廿六日養父入御自稱養父院
此御所也或百平儀之角或千儀也

山和僧之... 減之或百十... 卒在... 延至... 稻葉... 此占入... 室永元中元二月十二日... 文昭公西九... 入... 此... 同六世年十一月十二日

文昭公 御中丸台... 大... 入... 享保二酉年八月十九日... 元又丑申年四月廿五日... 昇新同寺... 昇院持法目精

宮高 卷每 小性... 隆山... 始小八所... 昇院

實母 弟母

妻

宗性延和二年生

仙石左門延和二年

天和二壬戌年十月廿二日生白府

宝永六壬午年四月廿二日生長祿院住持

石出大五若松平公以入無通

或百儀年久保如多殿住持

元文五申年四月十九日武官長祿

作年松平住持長祿院住持相勤

四月廿二日又長祿院住持相勤

同年七月二日海月松平住持長祿院

信渡山

寬延四未年延和二年西寺之相勤

同年宝永六月廿二日死七十

兼所同寺号智壽院住持

廣退

姑 龜山

小公山

外記

長母

仙石左門延和年

實母

弟母

妻

宗性延和二年生

仙石左門延和二年

享保十乙巳年七月十日生白府

寛延二己年三月廿六日長祿倉修仕
石出大西番之由和事之組入式百後
江戸之酒井庄之厨屋之修仕
同四年六月廿五日高元
同年十二月廿九日自松平右近将監殿
之修仕
明和元年九月十日高元之修仕
松平右近将監殿之修仕
安永二年四月十九日高元之修仕
高元之修仕

同年六月十七日高元之修仕
高元之修仕
同年八月廿三日高元之修仕
高元之修仕
安永四年五月十八日高元之修仕
高元之修仕
同年九月四日高元之修仕
高元之修仕
同五年六月廿二日高元之修仕
高元之修仕

同年九月出帆 示位之帳 舟共積式
洋願仕

同去同年 去甲年 出帆 船所
出帆 員令式 教洋願仕

同年八月十四日 出帆 舟共積式
洋願仕

同七年 八月廿三日 去同年 出帆
船所 出帆 員令式 教洋願仕

同年八月廿日 出帆 舟共積式
洋願仕

同九子年 六月六日 去亥年 出帆
船所 員令式 教洋願仕

同年九月十四日 出帆 舟共積式
洋願仕

同年三月十八日 出帆 舟共積式
洋願仕

同十七年四月二十日 出帆 舟共積式
洋願仕

同年八月十日 出帆 舟共積式
洋願仕

天保二三年八月十日
英後式部領事
同二年九月十日
英後式部領事
同六年二月十日
同七年二月十日
同七年六月十日
英領事

年八月十日
英領事
同九年二月十日
英領事
同九年六月十日
英領事

定書

母

昭和八年八月十日

總攝訪教節日定條
延享元年
延享元年

唐賢

始創之也

小八師

母

山院若水作山院

芳田其龜定後母

妻

山院若水

秋月其殿後母

後妻

山院若水

花山其殿後母

延享元年七月廿日生江府

天明七年九月廿日海國松平同慶殿
後妻小童清酒并同慶等子死入

享和元年四月廿四日總布衣 此母也

享和元年四月廿四日總布衣 此母也
松平信實子反此後後妻松平信實子
改布衣總

同享元年七月十四日總布衣 此母也
享和元年七月十四日總布衣 此母也

安永六年二月廿八日總布衣 此母也
享和元年二月廿八日總布衣 此母也

享和元年二月廿八日總布衣 此母也
天明七年二月廿八日總布衣 此母也

天明七年二月廿八日總布衣 此母也
享和元年二月廿八日總布衣 此母也

洋領屋補九百或十四坪と注し
西原庄居小島石切橋洋領屋費
二百半坪と相對せり
同四年四月十日願之通紙
作付し

改任

十名傍

冊 永月

天保四年四月廿九日性徳清津
或部少博從白領來り改任多事
乙亥年

乙亥年

養女

天保六年八月十七日
改任

二宅惣五所清乃妻

冊

天保十一年八月
改任

天保十一年八月
改任

廣法

又二所

養冊

實父

實冊

存女

寛政三年三月十七日廣法
改任

同四年三月廿二日
改任

少未又日限乃以係後王後水乃係
渡今凡以清乃知

陸那

昭德以所

外記

卷之四

實父

實母

妻

少先西陸統以

少先院若何所統統統統

少先院若何所統統統統

少先院若何所統統統統

陸山八師陸統統

實父 皇章後後後後後後中玄品成皇女

安永元年二月二十日生

實父 皇章元年二月廿九日

養子 皇章元年二月廿九日

同六 皇章元年四月廿四日

皇章元年四月廿四日

入

同八年 皇章元年二月廿四日

御目見 皇章元年二月廿七日

同九年 皇章元年二月廿七日

皇章元年二月廿七日

皇章元年

實父 皇章元年二月廿七日

洋園屋補之由書院若松年丙辰
江小川長左衛門洋園屋後山白山
河原孫五郎作之相討等事
作付也

二條五重之度相勅中
河目見仕浪拾致洋園屋

文化元十二月十日

宗

宗平院殿為師

後中玄高城島

母 宗女

宗

宗三志 早世

母

宗平院殿為師

後中玄高城島

後中玄高城島

女子

早世

母 上向

石之通法老山止

洋原屋山石川白山河原孫
當所山石切捨山後若
松年丙辰後宗兄山川
長左衛門河原孫五郎

高式百拾四卷
宗國抄後
生玉宗

寛政十一年

山外記
二十七

加菱形

系護

未三月音
永井大和守

九番
尾林助

津性組
永井大和守組
尾林助

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

菅系氏

河原林

先祖在左后左山公曾使五位下侍右富次
良行末流山崎山河原林三任在仕時代其弟
河原林詳之末流之如代其述河原林之末流
仕不取之如代也又字長河原林外其尾林
出野之尾林詳之末流之如代也其代其後
守羽之末流也水樂五百年之地其地仕
至綱討死之好代後嗣治道寺村地其威
康之末流也水樂之末流也其地其地
以此就道寺之末流也其地其地其地
水之江之就道寺山崎之末流也其地其地
其地其地其地其地其地其地其地其地

天文十四年三月廿三日馬場村岡家任其改其
家任其末流也其地其地其地其地其地

幕之改 葉楠

家之改 司以

整之改 其

菅系氏

良純 其末流也

母系也

其末流也 田中治之末流也

寬文二年九月十一日死

其末流也 新寺所一向宗西照寺

其末流也 安徳院新寺也

和久

河原林

母田中氏也

妻神ノ公ニシテ其母也

明曆二申年生口ノ

貞享二亥年四月廿一日

文昭公河内公長男流御日清節目沙陸山ノ人只長

後河内公新規立石寺合賜字ノ人様侍

貞享四年四月廿一日加山百後九四百後

室永九申年三月廿一日

西名ノ入所四月十一日西丸桐三同者

室永二酉年三月廿一日河内國河津郡山ノ寺合

室永七亥年三月廿一日於河津寺加山百石九百石

寺房國朝王都石堂村宮中村江見村ノ内ニシテ

貞享四年三月廿一日河津郡

室永二申年三月十日死之六

室永二酉年三月十日死之六

室永二亥年三月十日死之六

室永二卯年三月十日死之六

室永二巳年三月十日死之六

室永二未年三月十日死之六

室永二酉年三月十日死之六

室永二亥年三月十日死之六

室永二卯年三月十日死之六

室永二巳年三月十日死之六

室永二未年三月十日死之六

室永二酉年三月十日死之六

室永二亥年三月十日死之六

良伸 尾林住持

母上同

西丸河津院若巨勢日向寺院

當時 尾林三所住持家

和明

母神ノ氏也

室永二巳年生口ノ

元禄二己年生口ノ

室永四亥年八月廿一日 入喜楽維多助子也

室永八卯年八月九日死之六

室永同寺号龍之院性善之身是也

室永同寺号龍之院性善之身是也

女 母上同

女 母上同

和辭

石原信

源光俊

卷母 小花和氏女

實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊

正徳二年生 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

和叙

賜之

源光俊

母 尾林氏女

實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

和

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

實母 源光俊 實父 源光俊 實母 源光俊 實父 源光俊

和歌

助治部

美母松平氏母

實父 西九宮屋若松平七郎

弟田敷島三則四男

實母 西九宮屋若田山守

弟田敷在儀三子也

妻

柳分房 大園河原与増具也

後妻 山崎公陽

三子也

後妻 山崎公陽

三子也

實父 二己年三月十八日生

明和二年三月十八日入所仕進高野河守也

明和二年三月十八日入所仕進高野河守也

明和七年二月三日自美差地伺出及十成中
本野至存与傳也

天明二年八月廿三日新所仕進高野河守也
内子下村也 言二十八年七月廿八日所仕進
言上在仕中地土信國是揚那之内也 根村
刑部付也

系

係之系

母大園氏母

明和七年二月三日生也

安永四年四月廿九日死也
葬因寺号 建利院内 惡相也

母

母上自

某 雅右所

母山崎氏女

安永二箇年九月廿二日生

天明二箇年十二月廿二日生

某同寺号善照院慈光源妙

某貞 大正所

母赤女

素音合生男也俊雅女

天明元生年六月廿九日生

天明二生年二月十九日生

母松平氏女

某

新三所
母赤女

石之通河津以上

三九石 女房
上徳園 本園山崎 下谷六所

寛政一己未年

尾林助治所 五

未三月九日
巨勢日向守

系護

加
後
杉

物三所為家

氏
百番七番
坂田豊元

西尾所出
巨勢日向守
尾林三所長

菅系氏

河系林

幕致 蔓栢
水致 同
碧波 同

尾林言三勝良他三男

三男

母 少系成也 田中活之清也

妻 源清國常 志實七信也

万治二三年生也

貞享四年生也 九月六日

父 昭公 河野公 長昌院 權旨 河野目清 佐也

權田清俊 出賜 武百後 河野用人 九子也

元禄二三年二月七日所自見

元禄四年三月廿八日 和百後 九之百後

宝永元年二月廿

文云 西九月廿四日 同日二月 相之方 崇

宝永二年三月廿二日 節目 清也 河野 宗也

若年 清也 河野 宗也

宝永七年三月廿二日 卒於 清也 河野 宗也

享保六年八月十九日 死 六十四

葬 濱州 河野 宗也 河野 宗也

母 志實氏也

良時

妻 志實氏也
實川 清也 河野 宗也

川 清也 河野 宗也

寶島 妻尾林法在道心母中女
 元禄四年生白戸
 宝永六年四月十八日自見
 宝永六年四月十八日自見
 同年年二月廿六日卒
 延享二年九月十二日入河津性理院我伊勢守祖
 宝曆六年四月十二日死
 葬同寺 号法在院 墓宗例山忘

良典

法之忠
 母 中 女
 元文元年生白戸
 宝曆二年二月二十日死
 葬同寺 号法在院 墓宗例山忘

良泰

法在院 初修之節
 母 中 女
 妻 中 女
 元文四年三月十六日生白戸
 宝曆六年七月六日自入河津性理院我伊勢守祖
 宝曆九年四月廿九日入河津性理院我伊勢守祖
 明和二年三月廿五日中奥奥書
 安永二年七月十八日自見
 安永四年十一月廿九日自見
 同年年二月十八日死
 葬同寺 号法在院 墓宗例山忘
 在良著西尾七喜清教里同人多前并流在合
 俾院修也

女
母上自

良順

三所之傷

知幸之傷

母小栗氏也

貴母依田氏也

妻之梅氏 仁平些次爲其母也

安永六百年三月廿六日海阻去后也

後妻山子子海上也其母曰某部也

天明五百年三月廿六日海阻其母也

後妻二橋氏也中川津也其母也

安永三百年二月廿六日海阻其母也

安永五百年二月廿六日海阻其母也

天明元百年三月廿六日海阻其母也

天明二百年十月廿六日海阻其母也
於差房因海阻其母也

天明七百年二月十日
河部信房也

實元政七年二月廿六日海阻其母也

實元政八年二月十日海阻其母也

實元政九年二月十日海阻其母也

實元政十年二月十日海阻其母也

實元政十一年二月十日海阻其母也

小布折二目通之先利百程所揚成之月
 丑百字四降
 宣和六年二月七日類
 宝曆十三年八月廿五日
 布折二三揚之月百字相封
 明和七年八月十日類
 宝永二年十二月九日
 宣和七年八月十日類
 海部千代子組岩原市信
 形之通

中 丹多女
 中 丹多女

中 丹多女
 宣和七年八月十日類
 海部千代子組岩原市信

中 丹多女
 石之通

之八百石出房國 年國山味 市音川田産

宣和七年八月十日類
 尾林之通

小
後養上

先祖書

存系中
中二而格書坊田景和子

新書水野伯耆守
山五系平江(清)

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

先祖書

藤原姓

少系

家紋丸之内三柄

因置改五之柄

幕後丸之内三柄

相仕氏列

後承姓出所不知少田系北條系
小机之陣主少系紙幣与伝為因系
康系因之系平江島府廳主長男

廳主惣領

初在荒木

一元祖

平國伊豆
生國彦

少系源次清平

母

母名

姑小田原北條家相長小田原波屋後

權現御

天正九年卯年神奈川所

清目見仕奉家

上三意氏次郎源次

武蔵村多子武田名部守重

文隆之申午年言出後山内山内公事初

是後度長八年大出言言木山組多和

初寛永二乙七年九月首左段五言言

病死仕申年四拾七歳小机村所就山内

松洗上弁

法石邊山嶽玄徽

重三妻

勤忠山内年九節女

重三娘願

謙永二有

重三湯骨

山内平右衛門信定

神田河原右新規之五出付之弟弟小重信祖

初紙燈河与少紙公系系高橋信守女也

重三子

重三女子

勤忠山内年九節女

三子孫

山内平右衛門信重

生國重藏

初

勤忠山内年九節女

一二代目

名護公長 元和二丙寅年丁巳冬大雪之日由之山出遊
實永十景園年上信國極生歌信修村
言武百石一派並為北勝守每之後長宗
牙領小者信組信修年入組入
寛文八戊申年六月廿日高死年六拾七
葬新島同寺 法名靜雲全名

信重 幼名 二子小者信國女

信重物園 謹奉有

信重女子 信重子 法水授之助政康書

一三目

生國氏藏

信重德成 二十ニツ
信重系年信國信康

攝女

二子小者信國女

海貞母系女

大猷公清代實永上申戌年亥冬大雪日由之山出遊
初病氣身死於小者信國村南内信元
組入

貞子二己年三月二日賴之通信重身

元禄二己年五月七日高死年上拾八

葬新島同寺法名法然了了の

信康書 大若村守信元組
信重系年信國信康

信慶卷子

信慶女子

後未方々

信慶女子

一回目

生國氏藏

信慶女子

實母

信慶女子

實母

信慶女子

常憲公御代天和三年三月十日

貞享二年三月二十日

家督之帝室松浦内藏元祖入

貞享四年二月二十日

此書入世

元禄七年甲戌年三月二十日

相勤

享保八年卯年二月二十日

常女子配成山條新茂

申年六月廿日

富原長山長治寺

信務妻

信務妻

信務總領

謹奉有之

一五八目

生國武藏

信務總領

此系奉旨信務

母

大善所領中書

此系奉旨信務

有德公卿元文五庚申年八月一日亡父系奉旨通
此系奉旨小善信組山條新信多紙上入
于後山口名庫多紙之流宝曆十庚申年
五月九日領之通院在信務和之西成
年六月廿二日高元年八月拾二日少村村
就山雲松院 謹奉

法名孝廉系忠

信務發良子

謹奉有之

一六八目

二四〇石

武藏國

生國武藏

此系奉旨信務

養母信務

實母信務

信務公卿元文五庚申年九月六日領之通養子信務
宝曆十庚申年五月九日養父入平信務山領
之通家信務元文五庚申年九月六日領之通

支那輸入

後明公河代室曆十二二年二月七日 河目見

安永二年二月九日大出番永井信海之他

河目見

同丑申申年八月七日新番河目見

河目見

安永八年九月十日新番河目見

上覽記 河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

信女惣領

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

信女惣領

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

河目見申申時後河目見

作付

小室宗元長男長子

信女二男

小室宗久長男長子

安永四年三月一日私室又小室宗元長男
長親西九女妻高若之次相幼孫頼之通
孫宗元子也 信女

小室宗元長男長子

信女女子

小室宗元長男長子

始人由書白願申受書後任平定江前長子長
孫宗元子也 信女
長親西九女妻高若之次相幼孫頼之通
孫宗元子也 信女

信女女子

小室宗元長男長子

右之通江屋山以上

寛政十三年

安永四年

小室宗元長男長子

未三月
紙綴何事出

系譜

小
媽原惠布
秀王反

藤原氏
八百軍番
切田景光

小
景信祖
紙綴何事出
小五原五郎

後系姓

山系系氏

幕後

九百二箱

幕後

九百二箱

幕後

五二箱

信定

信定

信定

丹山平九所女

實元永九由年八月二日二富、實元出入平八所

之尾半七所組

其後組次

實元又二定年十月二日

神田河原、實元所賜之百後河原等次

其後組次

貞享元五年七月十八日死

幕後組次
實元所賜之百後河原等次

信務

又十所

美濃母不知

實元所賜之百後河原等次

實元所賜之百後河原等次

其後組次

明曆元五年五月十日卷子

實元又七年十一月廿七日、實元所賜之百後河原等次

延寶元五年十二月廿六日、實元所賜之百後河原等次

其後組次

信務

天保十年三月廿五日
信務
母上同
年号月日

信正

母之好女
天保十年三月廿五日
信正
母上同
年号月日

女

母上同
女

信種

信種
又
天保十年三月廿五日
信種
母上同
年号月日

信方

万三巻

母 美系氏女

美系氏女 根岸新治 是也

宝暦八年 生

宝暦二年 二月 入松 友房 女

宝暦四年 九月 入松 友房 女

宝暦二年 三月 入松 友房 女

取人 死

三喜 同寺 号 深妻院 同 号 海玄

三喜 同寺 又 以 席

母 上 母

三喜 元年 二月 入松 友房 女

女

宝暦元年 二月 入松 友房 女

母 上 母

女

宝暦元年 二月 入松 友房 女

母 上 母

信信

多 巻

母 根岸氏女

根岸氏女 伴 是 也

宝暦二年 二月 入松 友房 女

宝暦二年 七月 入松 友房 女

宝暦四年 六月 入松 友房 女

宝暦五年 二月 入松 友房 女

同年 四月 日 光 少 僧

天明八年 八月 入松 友房 女

宝暦元年 五月 入松 友房 女

同年 八月 入松 友房 女

葬回寺号月源院号庵深木

生年

信寿

母伴氏女 生年

安永三年九月廿日生

寛政元年十一月廿日自入馬田女房

安永三年十一月廿日死

信守 丑丑

寛政元年九月廿日生

安永三年二月七日生

寛政六年二月廿日自入酒井氏

寛政十年四月廿日自入馬場氏

安永三年四月廿日自入馬場氏

寛政十年四月廿日自入馬場氏

右之通法隆寺

信之百後平國信之 飯田河二合半致下

寛政十一年未年 山系五希揚及

三月廿八日
小室系義棟与出

系譜

小
都系正以務
系上及

系系中
八百平正書增用書系

小室信恒
小室系義棟与出
小室系惣五郎

後平座

山系

弟致

九月二日拍

家致

九月二日拍

整致

丑二日拍

作置

公儀信其言

信務

母也知

妻少人川由

石川在信女

年月日也知

神田河原在信在出河内

于後河原在信
天和二年九月

元禄六年十一月廿九日死

葬河原山和村即家山寺松院
号孤月身也恩

信

利信

母石川氏也

元禄六年十一月廿九日死
分知

元禄九年七月廿一日死

信久 源八郎 兄也恩
母上自

信久

源八郎

妻后堂和原也家本八川在信女

元禄六年分知百幸後入野田河内守
元禄九子年三月九日自之百幸後 野田河内守
享保九辰年三月廿五日
享保年通分息山寺
号保彦院親智海

信去 利右衛門

母乃川氏女

享保四年生

享保九辰年三月廿七日自入吉原宿在野田

享保十六辰年九月十九日田中

享保十八辰年二月廿五日

享保二十辰年二月九日入河内守野田河内守

享保二十辰年
大新御所性入山石母波
實元延四辰年七月十一日入合由
享保元年三月十一日入河内守野田河内守
明和四年五月八日入河内守野田河内守
明和八年八月廿五日
享保四年八月廿五日
享保四年八月廿五日

信成 十右衛門

英良母乃川氏女

享保元年三月十一日入河内守野田河内守

享保元年三月十一日入河内守野田河内守

享保元年三月十一日入河内守野田河内守

享保元年三月十一日入河内守野田河内守

女

明和二年三月八日卯時生
明和九年三月廿四日寅時自入長門川合前事死
安永元年三月廿二日酉時入古堂院書西門夜多事死
天明八年五月廿二日酉時入古堂院書西門夜多事死
寛政元年三月廿二日酉時入古堂院書西門夜多事死
其葬同寺号廻道院新法性

信存

全十回

母心之系氏女

素心院書
世系傳卷之四

圓井共三情精乃女

明和五年生

寛政元年三月廿二日寅時自入古堂院書西門夜多事死

寛政二年三月廿二日酉時入古堂院書西門夜多事死
寛政三年三月廿二日酉時入古堂院書西門夜多事死
寛政五年二月十九日死二十六
其葬同寺号廻道院新法性

信方 惣五回

養母圓井氏女

實 新着
系系字之傳祖

實母 陸奥人

素心院書

安永六年三月廿二日酉時生

寛政五年三月廿二日酉時自入古堂院書西門夜多事死

女
母上育

右之通法卷の上

三百五十六

小折林所四丁目

寛政十一年未年

芝居惣持也

未十二月廿日出

任中
六百拾七番地目

先祖書

加
分
港

五十二番地

山之内末次

平姓

宗系

家紋 井坊内文字

惣紋 丸内拾段

帯紋 同形

正明

産之節

小政

母系

寛文上一年四月九日... 徳光寺... 同年去賜百後十日... 延宝七年三月十日... 子存... 寺台...

元禄五年二月十九日... 同年四月廿七日... 云々...

正利

宗系

始新

母系

保尾林...

元禄十五年三月十九日... 享保八年六月廿七日... 享保十二年三月... 享保十八年七月... 同年四月廿七日...

正慶

始新

母源尾氏女

妻 勢元但馬守 正徳元年八月廿六日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中

正妻

母之御氏女

享保元年八月廿六日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中

母

正妻

左衛門 仙之助

實 外孫

栗崎屋有三堂二男

享保元年九月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中
享保二年五月廿七日入御井中

母

正妻

母

正妻

母

正妻

正妻

實 丁醫平塚左衛門

寶丹 梅沢玄印 靜山 女

安永八年十月十日 静山の子梅谷宗徳が此の丹を
仙名河の傍に傳へ

安永九年八月廿日 宗徳入仙名河の傍に傳へ

寛政五年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

寛政六年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

同安永九年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

同安永九年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

同安永九年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

朱 玄庵 無名 十才

寛政五年二月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

寛政七年八月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

石 了通 沙羅 山 上

寛政七年八月廿日 曾喜合が此の丹を傳へ

高百後十人 住持 平國 和泉

か
子権
可

系権

未二月廿八日
二家
家
家
家
家

法
富
富
富
富
富

小
宝
山
系
系
系
系

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

平氏

幕之役

赤之役

望之役

井村自一文字九月格取

井村自一文字

九月格取

平氏

母 赤女

妻

小倉助右衛門女

台徳公御代

大蔵公御代高之御代 赤女是上御平念之御代

母

御醫師

系譜玄格恒老女

妻

兼合三直
陸奥守

日下敏五郎八郎女

實文元七年八月廿五日
常憲公初白 御目見

同七年丁酉四月廿五日御目

天和二年十一月廿五日死

兼所 深川 淨心寺 檀中 玉泉院

号 愛媛院玄達

某

甲世 大助

母上同

氏名

流石

玄泉

道順

母上同

女子

母上同

平田道有妻

重元

長源

長吉

陸右衛門玄

母

日下敏五郎八郎女

妻

三浦志房
後藤平兵衛女

天和元年丁酉三月廿五日御目

常憲公初 御目見仕

因之去年二月廿日海自出此年若年如
 少事既多身事如
 貞吉子之宮年丁九月廿日市元八歲時於
 此及誠中子完帝後中二十方成若年
 少以多當介小童法老故之及也此入社
 上家業出信可也
 因月廿三日於初夜誠中子完也先例
 年始五歲為月廿三日
 海自出之身事如
 亥子係之四年連年始五歲為月廿三日

海自見此身事如
 年始五歲為月廿三日
 因廿九年二月廿三日身事如
 此及身事如
 因廿一年年四月廿三日身事如
 元文五年七月十日死十七二
 葬新同寺 号 中長院願云

述滿
 母
 福藏年存通也

書

河野傳

禮部主簿

宣和元年四月丙午京師陷于金人
中務少輔殿中侍御史中丞汪公孫
從入宮保二年九月三日遷御史
法心流殿中宿衛了初改命從後
正仲後

同二年七月七日京師陷于金人
於平多伊濟等殿中完正仲後正役科
正後正下正勤正並正勤
宣和二年正月九日京師陷于金人

河野在少詹事法用正 正仲正小出

正仲正後正仲後

同二年八月廿五日京師陷于金人

同四年六月廿二日西元法後法用正

正仲正秋元正仲正後正仲後河野

正仲正正仲後

同九年三月海軍養生所拾七年正初

正仲正正仲正正仲正正仲正

同二年三月廿四日正仲正正仲正

正仲正正仲正正仲正正仲正

宗師度小普法市格人信事死入

同年六月廿百死七十七

葬所回寺号仲保院日宗

宗

乙三身

表竹

道首

母上自

享保七官年三月百小普法有了月信

子死 河野所 卒田道有卷女子以公

元忠

明正所

表原

母

萩原玄伯女

書

小普法通并出年七月

表原表古宗女

宝曆七七年三月之河内宗元

信信云

河内宗元

同八官年三月之官年始上上四年

小石川表生所身是官同五月之板念信度及

子領

同八月廿日見官云 信守之官年及

寄合表所一信云 宗元後宗元信年

卷生所一信云 宗元後宗元信年

明和九官年二月廿九日於院信信云

父之半藏之少教令洋願仕
安永二乙年五月十八日死年九

又新河同寺号珠光院住持

朝之志 道有

母上自

寛延元辰年十月百廿二日内藏助
子既出醫師 平田屋有美子之成公

中子 安永二乙年四月廿二日景保書

母家女

文嘉

岩之巻 茂成 巻目録

母

妻

一掃海

安永二乙年古三書女
巻目録

安永二乙年六月廿日母祖文述滿子既攝源

兼祖也 似身名松平右近将監及子既後

同二月廿日海同母祖也

同九月廿日海同母祖也 板倉信俊及

此後後少書信市格人信子既入

寛政二乙年十月十日石河寺及子既

少石川卷生新也 抄信り取於河田信俊及

正徳後出役料之儀
 正徳九年十一月廿九日
 正徳九年十一月廿九日
 正徳九年十一月廿九日

女子 早世
 母上旨

女子 早世
 母上旨

女子 早世
 母上旨

石氏被檢女水十五年三月廿四日
 石氏被檢女水十五年三月廿四日

女子 早世
 母上旨

右之通沙流山

二百後拾人扶持
 生國 和采
 洋順原浦

當時少名和出結通山
 正徳十一年三月廿四日
 地面信託住居山

寛政十一年
 山立系養泉

三月晦日
表山右年級以下

先祖書

和原
新

法氏
千百裕宗
堀田豊常

表山右年
堀田彌太郎

先祖書

源姓

栞田

栞田首首栞田

家之俊五三桐

初俊 元九有四石 弟俊

河之後流

近國住人栞田信房也

一 元祖

生國 近江

栞田忠則直輝

母名

栞田平隆國有子家平以流一龍云云

常憲公河代

文照公在石原百原古至同古著也 河代

室永七雲年三月十八日初陽幸後
正徳元年五月十八日去至万善寺止之流
小善信入大徳院并寺也

同年十一月廿九日辞家也之改名
元文二年六月死字六

葬野辺福相寺

号祐信院字也日具

妻 得入 法云庵女

頼順

妙子

元文二年二月死
室曆四年二月死

一二代 生園氏藏

古卷抄
櫻田能十郎重喜

母 法云庵女

正徳元年正月七日葬
寛延二年七月廿七日葬

明和二年三月死八十年葬口寺

号祐信院字也日具

妻 得入 法云庵女

頼順

妙子

元文二年二月死
室曆四年二月死

一三代 生園氏藏

櫻田忠助祇也

母 熊田貞庵母

寛延二二年 延自酒井鐵平と組入
同年三月十八日 表裏右字 御所
天明二年 延字 五年 相和
同年 五月廿九日 病氣 小童 法入
徳助 常日 子 法入
同四年 延字 二月 延字 二年 延字 同寺
等 中 宗院 宗和 日法

書 子 延字 延
徳助 治 延字 延

物願 延字 延
女子 延字 延
少村 延字 延
福重 延字 延

一四八日 延字 延
根田 延字 延

母 秋世 延字 延

安永三年 延字 延
後明二年 延字 延

同五年 延字 延
延字 延

天明四年 延字 延
延字 延

天明二年 延字 延
延字 延

同七年 延字 延
心鏡院 延字 延

天明七年 延字 延
延字 延

江中

寛政四年三月廿九日 旨久々 旨勅 旨金

旨教 旨中

寛政六年三月廿七日 旨旨 旨旨 旨旨

旨旨 旨旨 旨旨 旨旨

旨旨 旨旨 旨旨 旨旨

旨旨 旨旨 旨旨 旨旨

旨旨 旨旨 旨旨 旨旨

越前

櫻田市 中 中 中

中子

櫻田市 中 中 中

中子

中子

右之通 江中 以上

寛政十年三月 櫻田市 中 中 中

未二月十日
墨川興市氏

先祖書

如
源形

信和源氏
千三百字若城田豊氏

山人墨川興市氏
上村信藏

此後守 源賴清孫為國七代後流

源清忠

上村七郎 後後村上村松連
後備降之主官石生年勤忠知

清春

上村久重尉 後後國後
備城于彰亮日被取誠列志後甲比及臣
係有子引取浪人志石生也

清盛

上村久重尉 甲斐國出生仕
知若部忠知

清定

上村久重尉尉 甲斐國後後國村上臣
内國仕務母後子長長仕也

永
石田
清成

上村傳在傳

二代目
清正

上村傳在傳

寛清

上村清在傳

二代目
勝清

上村傳在傳

三代目
改清
深目
清胤

上村十三助
上村傳藏

三代目
清徳

上村傳在傳

三代目
茶敬

上村傳在傳

清發

上村傳在傳

女子

居敬

清為

女子

相原長三郎清成の子

上村重右衛門
相原安三郎

先祖書

本石田

紙後源姓

上村

家之紋 石持之角花菱

習紋 丸之角之層金

幕之紋 石持之角花菱

此後守源親清為國七代後流
元祖紙後圓村上殿至平石田村
七代守源親清四代目上村之石田村
之時守源親清後任仕法定惣領

初代
一元祖

中玉御後
善國御孫

上村信實御孫

母

三木又右衛門母

右信實御孫

大猷公御代

寬永九壬申年二月出流
信實御孫 長生寺

後五人扶持
中玉御後 善國御孫 入

歲有云
相之桑園年十二月出流
人信實御孫

信實御孫

同十五戌亥年表出
善國御孫

同十六己卯年出流
信實御孫 初代

十後
信實御孫 百人扶持
信實御孫

信保二乙酉年
信實御孫 信實御孫

元禄二庚午年
二月廿七日
信實御孫 小室信實

坂本信實御孫

同四年未年六月十八日
信實御孫

同十四年乙卯年七月廿四日
信實御孫 十九

新井寺 淨持寺

号 若任院 土清日言

法成妻
小原源之清女
是平源之清女

同惣領
謹承方々

同次男
甲原友清
上村清造實清

但甲原友清
正永年八月廿三日承以地地

一二代目
生妻
法成親
上村清造實清

母
是平源之清女

右法成

元禄四年未年二月十八日家督小菅法成
是平源之清女

同六代目
同六代目年六月廿六日表出善之助

同十丁
同十丁年七月廿二日表出善之助

宝永七年
宝永七年三月廿七日死二十九

善新同寺
号圓光院寛延四日住

法心妻
山月幼在遺女

同養子
謹承方々

同女
上村清造實清

一二代目
生江府
上村清造實清

善母
山月幼在遺女

實父

實母不知

右侍清成

年月日不知後身之傳云以年終年終子
於作身王後

寶永七庚寅年五月廿日家督小重傳

但松前侯室也繼入

三徳元辛卯年六月廿日當士見法沙之室

茲番云作身年與今所存傳也繼入

有章公河代始因一壬辰年三月十日 河代也

初不知
上村五右衛門清房

河目見仕同之冬乙亥年五月十日

將軍 宣下 河目見仕

同四甲午年八月十九日死

葬所同寺 号鏡像院三月四日法

侍清美 上村信在傳清正女

同慈成 上村十一郎改清

母 上村信在傳清正女

三徳元辛卯年三月廿日當士死

葬所同寺 号法林

同美子

後系有之

同抄子

卷子

上村信藏清胤書

清胤卷子

上村信茂清胤

一四代目

生江府

母

上村信在清胤清胤

実父

松田信清

奥村松園三男

右清胤儀

年月日不知事能知年卷子此抄

正徳四年十月廿五日自新自小菅清松年

主平氏繼入

方多保之氏成年二月廿日打本園清胤

茂富之氏中室藏書此抄年松源左衛門

入因十五成成年二月十九日神名市山在島

茂富能勘定之抄年

元文二年五月高田勘定之抄年

寛保二年十月神定新田役之抄年

寛延元年二月廿日神小菅清胤

鐵中身繼入

宝曆八年三月十九日香子頼信在

同九年乙未二月廿日死之

新所同寺号清終院圓行日記

清胤書

上村信直(清胤)書

同養子

清胤書

同養女

上村信直(清胤)書

實父山位目身(上村)信直(清胤)書

一五代目

生江府

上村信直(清胤)書

實母(山位)目身(上村)信直(清胤)書

實父(山位)目身(上村)信直(清胤)書

實母(山位)目身(上村)信直(清胤)書

右清胤書

延享二丙寅年九月四日(實母)書

作(實母)書

寶曆八戌寅年十二月十九日(實母)書

如(實母)書

既入

明和二丙戌年四月(實母)書

同(實母)書

同(實母)書

安永四己未年十二月四日(實母)書

榮新(實母)書

清勝書

卷八

上村信房清胤養女

清勝書願

謹末方

同書

上村辨之進清勝

同書

私書

同書

同上

清勝書願

一六八目

生口

上村少次清勝

母

山勢走

上村清胤清胤養女

私儀

安永四年三月五日同日田

之屋原殿之清胤少進清胤清胤養女

天明二年三月九日成胤在馬子配

之屋原殿之清胤少進清胤清胤養女

寬政十年三月十日雲川市市組

之屋原殿之清胤少進清胤清胤養女

之屋原殿

上村重右衛門清勝

母家

寬政五年三月八日死

菅原新國守 芳三院了解日記

世男

母上向

桐原女三郎孝為

寛政四年壬午六月廿七日公孫源國守
領事東老三郎忠乃養子源國守

女子 母口外

右ノ通少佐也

二百後拾人扶持

内五人扶持出是也

十人

黒川守常能

辛二

寛政四年壬午 上村信藏為

未三月廿八日

堀田主膳出

信和源氏

七百三拾五番 堀田主膳為

系譜

源新

月

小菅長親

堀田主膳為

上條右三郎

清和源氏

上條

多田敏中四男ヨリ方甲斐國住人上條忠重
源氏の後胤上條源五郎源平承平
信長上條村に在る

幕之紋

丸割菱

家之紋

丸割菱

旗之紋

丸割菱

上條源四郎

上條源四郎

正雄

母

妻

年月日 上條村 出生

右 澤田 三 雄 藏

渡明新代室曆丁未年現年拾五自
分 苗字右大藤波井上佐理經力
氏身女水申年四月廿三日
同元 河社奉出信託 伴身
同七年四月廿六日近及年人能
并百或拾八後或十九元之通勤

常子既幼文之 氏身 氏於
板金 氏後 氏度
女水九子年十一月國東前川
氏身 氏在 氏度 氏後 氏被
氏身 氏親 氏子 氏身 氏自 氏知
天助六年六月廿五日 氏身 氏
通也 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
氏後 氏年 氏月 氏日 氏
氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏
時後 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

五月廿日 御自見之儀 同日方時後二
 金武殿下重々方木野中相々殿之御後
 天明八申年三月晦日午三時 由是之由共
 是通之通王后之御外之儀科武百儀之由
 此後年以之儀身之相年行之儀之御後
 相知
 寛政四子年七月廿日高之儀年之儀七
 小石川坊西院地中王降院之儀
 法名常深院禮堂之進之儀
 清願堂補安永八子年五月晦日之儀此
 年正儀上地角武百降院之儀其後由水

九子年二月廿日濱所 物被所四百降之儀
 組白願甲申年子之儀之儀之儀之儀之儀
 類之通之通之通之通之通之通之通之通

好紙 上條之由

冊

信列上條村之由

上條庄之御好紙之由

書

之由之由

一柳忠臣之御好紙之由

辛卯八月廿日知生之御

石之之御好紙之由

當清代寛政四子年七月又上條深河之儀之由

出役勤在互此高...
 本年十月四日...
 同六月...
 同七月...
 小石川...
 法名...

好總

上條名鳥

美鳥

元鳥走

一柳也...
家母

美鳥

家母

右名鳥成

卷長父上條...
 支死...
 卷長子...
 卷長父...
 右名鳥成...

男用之信少紙成

西野定

後井治右衛門教賢書

女子

冊有也

女子

二人

元山島定

一柳忠四郎是詮書

石之通河津山以上

高百後

本國甲斐
生國宗卷

后白浦河津可

寛政丁未年

上條右之助

三三歳

馬

か
醫形

先祖書

申
壬
酉
月
三
日
申

氏
子
武
吉
子
若
松
田
屋
長
子

音合
醫形
上
領
玄
碩

源姓

上領

家紋 二ツ引
幕後 丑七桐
幕後 丑七桐

蒲津曾子範新後流石川一傳人吉身見氣藏大補
六伴三源上領酒尾惣領

範親

玄碩

又兼江ノ白根村具禰子
号伍備院彦時流安也主

享保十九年四月下初旬御目見
元又丑申年七月七日御目見
山ノ御差左の御目見
中御目見
延享二年八月御目見

頼之

玄碩

母 中川内侍信長末子信吉庵女御

延享二年十月廿九日御目見
同年十二月七日御目見
遺之御目見
寛延四年五月廿五日御目見
御目見
宝曆八年八月廿五日御目見
其後同寺 号雷性院老入我孫子

心乾豊

玄碩

寶曆八年三月廿四日御目見
宝曆八年七月二日御目見
延享二年七月二日御目見

安永四年二月廿九日
葬同寺 尊賢相院中後御座居士

利峯

玄碩

實少府中三郎右利尚恐願

實母左衛門式部女幸

安永四年九月廿五日 入今川山崎寺

天明二年三月十九日 出光光寺

天明五年二月十八日 命命寺

實政上未年三月廿四日 光光寺

安永四年三月廿四日 光光寺

某又

實政三年二月廿四日

葬同寺 尊賢相院中後御座居士

女三人

石之通法隆山

實政上未年三月 上領玄碩

[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

